

綾部市上下水道審議会議事要旨

1 日 時 令和7年1月27日（月） 午後1時30分から

2 場 所 上水道課会議室

3 出席者 委 員 上野 司、平野 正明、朝倉 正道、高橋 秀文、土井 渡、
中西 朋子、由良 茂文、泉 朝子、吉崎 ゆかり、大石 浩明
事務局 上下水道部長 小林 浩子、上下水道部次長 十倉 和寿、
下水道課長 仲井 渉 ほか8名

4 審議会

(1) 開 会

(2) 上下水道部長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 議 題

十倉次長：

綾部市水道事業ビジョンの素案説明

(質疑応答)

・朝倉委員：

類似団体の指標とはどのようなものか。

・小林部長：

人口規模、財政規模、地形に対する人口密度等を基に、総務省が定めている指標を参考にしている。

・由良委員：

市内の簡易水道の状況と管理体制はどうなっているのか。

・小林部長：

簡易水道事業については、令和2年度に経営統合し、市が上水道事業として一体的に経営している。

旧簡易水道については、統合後10年間を期限とし、激変緩和措置として高料金対策に係る交付税措置がある。統合後、5年間は100%の措置となるが、その後、段階的に減額となる。

今現在は、旧簡易水道についても上水道と同様の扱いとしている。

- ・由良委員：
そのことは、今回の水道事業ビジョンの中で触れられているか。
- ・十倉次長：
簡易水道事業については、既に令和2年度に上水道事業として経営統合しているため、素案のなかでは、上水道事業としての扱いとして作成している。
旧簡易水道の施設はそのまま引き継ぎ、上水道事業として経営している。
- ・土井委員：
法定耐用年数の超過率が高い水準となっているが、耐震化率の成績率はよいのはなぜか。
- ・十倉次長：
耐震化率と老朽管率は種類の異なるものである。
耐震化率とは耐震適合性のある施設の割合を示すもので、高いほど良いとされる指標。
老朽化率とは施設の耐用年数に対する経過年数の割合を示すもので、低い方がよいとされる指標である。
- ・小林部長：
浄水施設や配水施設等、施設の方は比較的耐震化が進んでいるが、管路については耐震化があまり進んでいない状況にある。
- ・由良委員：
耐震化率の震度の想定はどのくらいか。
- ・小林部長：
震度7の地震に耐えうる材質を使用している管である。
- ・土井委員：
配水管が耐震管になっていないということか。
- ・小林部長：
導水管、送水管は耐震化が進んでいるが、配水管については、耐水管率が低い状況となっている。
- ・高橋委員：
今後収益が悪くなっていく予想があるが、これに対するビジョン、改善策の進捗状況が見当たらない。
近隣市も同様の状況なのか。

- ・小林部長：

ビジョンとしては実現化方策として文言としての記載はあるが、具体的な数値としてはわかりにくいかもしれない。記載方法について工夫をしていきたい。
- ・十倉次長：

近隣市の状況についても、本市同様、厳しい状況が考えられるが、詳細な資料は持ち合わせがない。
- ・高橋委員：

広域的な連携を具体的にしていかなければ、本市だけでの対応は難しいのではないかと。
- ・小林部長：

広域連携の考え方については、今後人口減少していく中で、近隣市と協力してやっていかなければ厳しい状況にあると思う。定期的に広域連携の会議も開催されており検討していく。
- ・平野副会長
事業環境としては50年間記載されており、非常に厳しい状況となっている。
実現化方策を10年間実施することで、厳しい状況がどのように上昇するのかわかればありがたい。
- ・十倉次長：

ビジョンに示しているとおおり、5年毎に財政の検証をしていく計画である。その中で、資金有高を上向きにしていくことを考えていく。財源については、具体的な記載はしていないが、建設改良費が増大する際には、企業債や有利な交付金の獲得等も重要になってくる。
- ・小林部長：

5年ごとに財政の見直しをしていく中で、料金改定や企業債、交付金の活用等も踏まえて、目指すべきところをビジョンにも反映できるようにであれば検討したい。
- ・大石委員：

技術職員の確保は厳しい状況にある。
外部委託も積極的に進めていかないと難しいのでは。
- ・小林部長：

本市に限らず、どこの市でも同様の状況ではあるが、技術職員については採用試験の募集を行っても応募がない、確保自体が厳しい状況にある。技術の継承等が大きな課題となっている。
外部委託についても考えていくべきであるが、喫緊の対策として、人数の確保、人材育

成を中心に、技術の継承を高めることを考えていきたい。

人材育成の支援制度や、外部研修等も活用しながら技術の継承、人材育成を行っていき
たい。

・平野副会長：

災害時の井戸の活用について。

・小林部長：

能登半島地震の際には個人の井戸を活用した事例もある。

井戸活用は市全体として、個人の井戸を有事の際には防災用として活用するなど検討し
ていくが、水質の問題等クリアすべき課題もある。

水道が整備する防災用井戸への補助等の考え方も出てきているようなので、今後研究し
ていきたい。

常に新しい情報を収集し、研究していきたい。

・由良委員：

ビジョンの記載内容として、簡易水道を統合したことで財政が厳しくなっていくとい
う表現が気になる。

前向きな記載もあった方が理解しやすい。

・小林部長：

記載内容については工夫する。

(5) 閉会あいさつ 小林上下水道部長

終了：午後3時00分